

川柳二五〇年記念句会

川柳二五〇年記念句会は、記念式典、記念講演に引き続き事前投句5題、当日即吟3題で行なわれた。事前投句の参加者は、三三三名、当日参加は、一八八名。句会での披講を聞くのは初めてという一般参加者も含め、テレビ取材班がカメラを回す中、朗々と広い会場に句が読み上げられた。



川柳 250 年記念句会の選者と文台

通常は見ること
が無い(句会)とい
う雰囲気、句を作
らない一般参加者
も好奇心をくすぐ
られ楽しんだよう
だ。北の選者・齋藤
大雄氏から北野岸
柳氏、雫石隆子氏、
大野風柳氏、天根夢

草氏へと南へ順に披講。即吟選評は、地元台東区の大川幸太郎氏と東京の脇や川柳氏、尾藤三柳氏が行なった。選者の披講、会場からの呼名、文台の再称がリズムミカルに句会を盛り上げた。各題入選句は以下のとおり。

「新しい」

齋藤 大雄 選

特選

ニュータウンそして田んぼがまた消える 北海道 浪越靖政

秀逸

カタカナが闊歩しだした日本地図 静岡 望月 弘
新薬がすぐ出来ますと励まされ 神奈川 西村 達
いつの間に買ったドレスで妻出掛け 東京 大貫友康
新しい家に老人だけの声 宮城 岡本英司
マニュアルが新しくなり職を退く 千葉 老沼正一



齋藤大雄
札幌川柳社代表
昭和8年札幌生れ。
地元北海道はもちろ
ん、全国的指導者とし
て吟社、教室、著述、
マスコミを通じて川柳
の社会的普及に務め
る。

*

新製品今に社長が謝罪する
覚えても覚えてもまたカタカナ語
団塊の手にピカピカの鍬がある
新しい帽子に若い気を貰う
新しい出逢いとときめく紅を選ぶ
新調の背広鏡も見とれてる
職辞してからご近所が新しい
新しい愛を求めて聖書繰る
糠床をピカピカにする祖母の智慧
新しいページを埋める乳母車
コミック誌新語の辞書が欲しくなる
赤ちゃんもくサインするママの乳
陽が昇るしつかり今日を刻み込む
パパになる朝の歩幅が広がる
過疎の地に元気を与える新生児
活気ある大都市貌をまた変える
定年で鍬を握った新天地
団塊が一から学ぶ定年後
ニューファッション追いかけているさみしい娘
甦るときめき老いのリニューアル

東京 坂巻春妙
大阪 岩田明子
神奈川 石井正俊
神奈川 高見英子
宮城 沼田亀之助
東京 秋野康夫
東京 上村 脩
兵庫 大橋あきゑ
神奈川 二宮茂男
東京 清水香代子
東京 新井千恵子
千葉 老沼正一
兵庫 山口ヨシエ
千葉 今井源親
長崎 松平弘明
東京 浜川溪舟
茨城 白浜真砂子
熊本 阪本ちえこ
神奈川 相沢ミケエ
千葉 増田幸一



北野岸柳
おなじょうき川柳社代表
昭和21年青森県生れ。

「堀」

北野 岸柳 選

特選

消えた年金置いていけ堀に似てないか 東京 植竹団扇

秀逸

父の忌や堀は濁ったままである 高知 北村泰章
老い二人並び跳べそな堀がある 茨城 荒怡怡和
堀割の水の律儀さには負ける 千葉 本田哲子
堀の水一日二合かかさな 青森 小野五郎
我が岩空堀枯渴いかにせん 東京 萩原千賀子

*

男堀女堀かな夫婦業 東京 直地俊一
冗談も通じる堀で城眠る 長野 石田一郎
父という昭和時分にあつた堀 東京 松原幸子
今日も又おいてけ堀で膝を抱く 東京 大貫友康
内堀も外堀もなく生きて 宮城 鎌田京子

内堀を埋めて仏と至近距離
 釣り堀でつりをしてしている逃亡者
 釣り堀へ頬杖をしに行つて来る
 少年期たどれば夏の堀に出る
 凶と出たみくじが堀に浮いている
 症候群の堀を廻つて彷徨えり
 酌み交わし心の堀をしぼし干す
 お堀の「お」丁寧語ではないらしい
 人にやがて置いてけ堀という掟
 勇ましい波を知らない堀の水
 蓋をして堀の流れる街に住む
 堀はまだなまめいている春だもの
 川柳と俳句の堀の深さとは
 嘘つきは嫌い小さな堀跨ぐ
 堀割の外れ木綿の独り言

東京 佐藤幸子
 千葉 野口一風
 鳥取 門脇かずお
 宮城 石森令子
 大阪 岩田明子
 京都 桜井未美
 東京 船木千夢
 東京 植竹団扇
 千葉 田制囃彦
 東京 松橋帆波
 宮城 大友孝子
 東京 山本忠次郎
 東京 萩原千賀子
 埼玉 佐藤美文
 千葉 佐々木福太郎

「栄える」

ふるさとが栄えるように鶴を折る
 秀逸
 バベルの塔を見下ろしているお月さま

雫石 隆子 選
 高知 北村泰章
 青森 高瀬霜石

口こみのラーメン店の列にいる
 西洋たんぼぼです多産系です
 何よりもゴミが栄えている地球
 三代がしつかり磨く床柱
 人間の栄えて地球やせてゆく
 繁栄のあかし我家のお犬様
 ネットカフェ渋谷新宿アキハバラ
 福耳の子が三代目継ぐと言う
 風雨にも勝つて千年杉の皺
 栄転と単身赴任セットです

宮城 岡本英司
 宮城 中條節子
 東京 坂巻春妙
 東京 秋野康夫
 神奈川 長谷川誠一
 神奈川 川瀬晶子
 埼玉 渡辺 梢
 千葉 米島暁子
 千葉 小倉利江
 宮城 長崎昭夫



雫石隆子
 川柳宮城野社主幹
 昭和21年生れ。
 川柳宮城野社の5代目主幹として吟社の発展的運営に力を尽くすとともに多数の川柳教室、新聞選者として新しい川柳家の育成に東奔西走している。

美しい国へ万骨枯れていく
 愚直さを紡ぎ稲穂を太らせる
 繁栄のレールを敷いた菜っぱ服
 三世代住む軒先にツバメ来る

*

弥栄を祈つて励む川柳忌
 母さんの笑顔があつて家栄う
 栄光を掴んだ父の傷だらけ
 榎山の介護施設が花ざかり
 村起こしダム湖の空に泳ぐ鯉
 人間が殖えて地球が狭くなる
 繁栄のかげで私も汗をふく
 孫もいる我が王国に妻という
 朝ドラが栄える町にしてくれる
 美しい国で栄えるパチンコ屋

東京 林 鶴彦
 兵庫 成定竹乃
 兵庫 中井大八
 三重 小河柳女
 茨城 金澤 敬
 千葉 高橋半眼
 沖繩 伊是名文子
 神奈川 近藤良樹
 栃木 平田実男
 鳥取 新家完司



大野風柳
 柳都川柳社主幹
 昭和3年新津市生れ。
 二十歳で柳都川柳社を興し、爾来60年。新潟に留まらず、全国的指導者として、多くの著述や文化活動を通じて川柳の活性化に務めている。

「樽」
 特選
 日本語で必要なときしやべる樽

秀逸

あるときの樽は真顔になつてゆく
 ニアミスをしたことがある薦被り
 祝い事私を壊す鏡割り
 樽の底抜けてコントがもう出ない
 樽の底こんな老後もあつていい

*

空樽を何の樽かと嗅いでみる
 八木節を八木節にする樽の音
 酒蔵の樽が答えるもういいよ
 酒樽のもろみに聞かすシューベルト

高知 北村泰章
 青森 高瀬霜石
 東京 伊藤三十六
 青森 中島久光
 宮城 中條節子
 東京 小林正行
 東京 内田博柳
 千葉 菅井京子
 東京 加藤松美

樽酒を割って女も天下取る
自信作樽に入れば味が出る
格差等知らずに眠る樽の酒
樽の中大判小判領収書

こも樽を仲間の貌で叩き割る
四斗樽を叩くと日本のジャズになる
にんげんの声こだまする柳樽

神様をリズムに乗せて樽叩く
来賓の一人間抜けな鏡割り
風貌も気性も妻は樽である

漬け樽の底にバイオの化学式
鏡開きに大臣代理知事代理

樽底で待とう出番はきつと来る
塗り樽を磨くと樽が笑い出す
樽の酒ちよるちよるキュツと量り売り
樽酒を呑んでころんでばかりいる

「芽ぶく」

特選

百会からグングン伸びてくる新芽

秀逸

天めざす万朶の夢がある双葉
こぼれ種何が芽ぶくか待っている
満月にすくつと芽ぶく影法師

一言に芽ぶくわたしの猜疑心
梔子の芽ぶいた鉢をいとおしむ
一斉に芽ぶく桜とテロリスト

芽ぶくものあり老境へ入れない
聞き流す耳だけを持つ柳の芽
プロポーズ受けます樹々の芽ぶく頃
雪解けの山に芽ぶきの音を聴く
それぞれの芽ぶき促す春の雨

「蔵」

特選

蔵凜と戦火をくぐり抜けた顔

秀逸

臍の緒は実家の蔵の隅にある
蔵の中江戸の文化がねむってる
時代劇うちの土蔵がまた写り
この家の歴史知ってる蔵の鍵
計画は妻の一声お蔵入り

埼玉 渡辺 梢

千葉 齊藤富士男

神奈川 坂本嘉三

埼玉 坂本嘉三

北海道 鈴木厚子

千葉 藤ノ木辰三郎

鳥取 新家完司

新潟 佐藤美幸

東京 内田博柳

大阪 吉道航太郎

東京 上村 脩

岡山 土居哲秋

静岡 加藤 鯉

千葉 田制罔彦

宮城 伊藤ちえこ

東京 山本忠次郎

天根 夢草 選

広島 河崎あゆみ

広島 河崎あゆみ

広島 河崎あゆみ

東京 新井千恵子

北海道 鈴木厚子

神奈川 若林よしえ

宮城 後藤成公

北海道 浪越靖政

北海道 浪越靖政

千葉 増田幸一

宮城 松本わか子

宮城 三浦平一郎

宮城 佐藤安子

大川幸太郎 選

千葉 菅井京子

鳥取 新家完司

宮城 岡本英司

東京 伊藤睦子

埼玉 佐藤美文

東京 関根彦兵衛



天根夢草

川柳展望代表

昭和17年鳥根県生れ。「川柳展望」創立から参加して編集を担当、後代表。機関誌および教室、マスコミで川柳の普及に努め、大吟社、関西で一勢力を築く。

残像が芽吹く八月十五日

白い風そよそよそよとブナ芽吹く
ドキドキドキ恋の芽ぶきの音がする
菜園に芽ぶくわたしの言葉たち

駅ビルの地下で芽ぶいている桜

*

新緑に合わせて融ける山の雪
それぞれの芽ぶき促す春の雨
街路樹の芽吹き足取り軽くなる

梅雨明けて夏色になる風になる
老いてなどおれぬ私が芽ぶき出す
チャレンジコーナー新老人芽吹く

母逝きて何度目の春木々芽ぶく
さくら芽ぶく満開までに嫁ぎゆく
ペランダの土にも芽ぶくものがある

大坂 中田たつお

*

蔵の奥座敷わらしが居る気配
姑の反乱蔵を占拠する
御先祖の暮らしが判る蔵の中

彩褪せぬ愛が満ちてる母の蔵
欲望のかけらが眠る蔵の中
焼け野原墓標のように蔵が立つ

化粧して土蔵人気の宿に化け
生き抜いた知恵が納まる父の蔵
おしおきと芽生え懐かし蔵の中

土蔵から鑑定団の叫ぶ声
長男を縛る土蔵の太い綱
熟成を促す蔵の息遣い

じいちゃんの蔵に哲学なんか無い
夏物をワゴンにのせる蔵払い

大坂 吉道航太郎

神奈川 古俣麻子

埼玉 斎藤弘美

千葉 米島暁子

埼玉 島崎 肇



大川幸太郎

台東川柳人連盟会長
大正12年東京生れ。個性豊かな下町ッ子を。

白黒の映画が似合う蔵の街
 代々の蔵が耐えてる震度6
 蔵の鍵錆びて昔を語れない
 町おこし蔵の魅力が見直され
 かくれんぼ早くみつめて欲しい蔵
 敗戦の無念蔵だけ残ってる
 人恋しくて歩いてしまふ蔵の街
 渋滞が寄り道させる蔵の町
 お蔵入りさせた記憶がまた騒ぐ
 米蔵に米はあるけど愛がない
 蔵の地下解体業者だけが知り
 蔵出しの美酒へ黙っていない喉
 米蔵に父の涙と汗の跡
 米蔵にゆったりと風吹き抜ける
 懐に豊かな蔵を持っている
 入れられて九九を覚えた蔵の中

「橋」

特選

お祭りの雪駄が好きなき妻橋
 秀逸

東京 秋野康史
 宮城 大槻気子
 新潟 五十嵐夏了
 東京 洪川溪舟
 東京 松橋帆波
 神奈川 近藤良樹
 宮城 佐藤岩男
 千葉 牧内ヨシ江
 東京 横山きのこ
 神奈川 松尾冬彦
 東京 内田博柳
 宮城 仁多見千絵
 千葉 松尾仙影
 千葉 藤ノ木辰三郎
 東京 生沼泰子

脇屋川柳選

東京 野中いち子

男には嫌でも渡る橋がある
 恋故に橋を造って渡りゆく
 橋越えて浅草人になりすまし
 踏切に橋を架けたい救急車
 警察の境界がある橋の上
 ないはずの橋を渡ってくる仏
 吊橋がうぶな二人を寄り添わせ

北海道 八木柳雀
 神奈川 森 孝夫
 東京 船木千夢
 東京 秋野康夫
 東京 山本桂馬
 北海道 浪越靖政
 神奈川 石井正俊

青空をぎゅっと抱きたい日本橋
 この町に生まれ名もない橋が好き
 吊橋の途中婚約迫られる
 橋渡りネコも姉やも帰らない
 煮え切らぬ二人に橋が長くなる

*

橋がある二人の先に赤とんぼ
 体重をすこし気にして橋渡る
 石橋を叩き損ねて闇を這う
 瘡蓋が取れそうという日本橋
 橋も時々力を抜いてみたくなる
 流木は貴方は橋ですか
 橋桁になりたい君が好きだから
 高齡が橋にもおよぶ骨粗鬆
 仲人というほどでなし橋渡しし



脇屋川柳
 川柳学会会長

大正15年東京生れ。川柳の遺活家として、昭和54年、十四世川柳会で行った東京川柳会での活動、江戸文化から古川柳研究に深い造詣がある。

千葉 本田哲子
 東京 永井天笑
 東京 松井文子
 宮城 雫石隆子
 大阪 岩田明子
 埼玉 石川蝶平
 鳥取 門脇かずお
 東京 塩見佳代
 埼玉 田中忠正
 北海道 浪越靖政
 東京 横山きのこ
 千葉 本田哲子
 千葉 津田 暹
 宮城 葛西妙子



固唾をのんで披講を待つ会場⑤と、爽やかに句会を盛上げた文台⑥、最前列の来賓と取材のカメラマン⑦ら。

川開き橋の向うにある孤独
 吊橋をそっと覗いた老い二人
 江戸の雨橋の片側だけ濡らす
 合羽橋守る老舗の台所
 木の橋がまだ残ってる町に住み
 泳げないから真ん中を渡る橋
 平和だけ見詰めていたい二重橋
 ドナーカードふたつの命つなぐ橋
 吊り橋を弱い女になり渡る
 度胸ある妻におされて橋渡る
 宅急便が飛脚を語る日本橋
 妻にだけ教えぬ橋が里にある
 吊り橋の途中でふっと銭のこと
 童謡が聞こえる橋が落ちてゆく

埼玉 佐藤美文
 宮城 高平伸子
 東京 吉田健治
 埼玉 河口世詞
 埼玉 田中忠正
 茨城 大田紀伊子
 千葉 藤ノ木辰三郎
 宮城 仁多見千絵
 東京 新井千恵子
 福島 鈴木英峰
 新潟 白勢朔太郎
 北海道 鈴木厚子
 神奈川 松尾冬彦
 ひろみ

「江戸」

特選

打ち水で冷やせる程の江戸の町
 秀逸

百万人円く暮した江戸仕種
 下町に江戸のDNAがある

尾藤三柳 選
 東京 坂牧春妙
 千葉 吉道まさお
 神奈川 石井正俊



尾藤三柳
川柳公論主宰
昭和4年東京生れ。
句会での第一人者から、
川柳評論、研究、指導の
第一人者として著述、講
演活動を続け、日本川柳
ペンクラブを興し、川柳
の社会性発展に務め、事
典や論文など、古川柳か
ら250年の体系化に尽力。

江戸の水飲んだ蛙が戻らない
北斎のしづきがゴッホまでかかり
雷おこしポキンと柄井八右衛門

新潟 石川実也子
東京 伊藤亮次
北海道 浪越靖政

*

泥鰌屋で小さな江戸を聞いている
江戸切りワインきれいに受け入れる
江戸はもう流れてこない隅田川
江戸の眉きりきりきりと自己主張
広重の雨が別れを辛くする
江戸しぐさ人に生まれて生かされて
モノクロの銀幕に観る江戸情緒
蟬時雨半歩さがって江戸に住む
打ち水がはねて涼しい江戸しぐさ
襟足のなんともいえぬ江戸切り

東京 松橋帆波
埼玉 南川哲夫
千葉 津田 暹
埼玉 渡辺 梢
栃木 大河原信昭
宮城 中條節子
栃木 大河原信昭
東京 佐藤 節
新潟 伊藤美幸
埼玉 岡村水無月

川柳を手繰ると見える江戸文化
江戸前の顔で世界が皿の上
打ち水が脚光浴びる江戸散歩
駄菓子屋で見つけた籤に小さい江戸
ここは江戸朝顔市を風が抜け
正太郎江戸の古地図をまたひるげ
江戸情緒残る家並みを風が褒め
広重の江戸を切手で送り出す
下町に屯している江戸の粋
ちよい悪の江戸の言葉が心地よい
江戸からの威厳を守る鬼瓦
大江戸の華にまじった多国籍
超高層の真下でもらう江戸マップ
浅草の職人江戸の技を継ぐ
浮世絵と共にひろげた江戸内輪
平成のお江戸サンバが駆け巡る
落語から江戸を学んで大笑い
江戸前に中国うなぎ紛れこみ
外国人に教えられている江戸しぐさ
江戸の灯を透かし切子の美酒に酔う

埼玉 島崎穂花
神奈川 古俣麻子
埼玉 島崎穂花
千葉 菅井京子
埼玉 佐藤美文
東京 大川幸太郎
東京 渋川溪舟
東京 大島有理
東京 塩見佳代
東京 新井千恵子
千葉藤ノ木辰三郎
神奈川 高橋里江子
神奈川 松井文子
東京 小山しげ幸
埼玉 河口世詞
大阪 岩田明子
神奈川 森 孝夫
千葉 松尾タケコ
宮城 佐藤岩男
千葉 千葉絹子

川柳二五〇年の記録

川柳二五〇年記念献句

(順不同)

柳祖礼賛うしろ姿を追っている
並び合う柳粗の軸や新世紀
川柳へ灼熱の年 江戸以来
大江戸の花火となった八右衛門
走るだけ走り迎える立机の日
川柳は地平の先に芽をふいた
新しい太陽昇る龍宝寺
川柳川柳とわたしの佛さま拝む
ちっぽけなわたしと川柳記念日と
川柳がいま甦る合羽橋
立役者柄井川柳蘇生する
川柳が背負った二五〇年
二五〇年流れの隅で溺れている
二五〇年川柳翁の子々孫々
平成の川柳江戸が甦る
二五〇年川柳光る平成路

宮城 雫石隆子
東京 松橋帆波
埼玉 願法みつる
埼玉 石川蝶平
埼玉 斎藤弘美
東京 青田煙眉
東京 吉田健治
大阪 天根夢草
大阪 田頭良子
東京 速川美竹
大阪 本田智彦
東京 山本忠次郎
鳥取 新家完司
東京 松井文子
新潟 長谷川冬樹
東京 秋野康夫

二五〇年川柳発祥の重み
二五〇年先祖を熱く酌み交わす
二五〇年との出会い楽しむ
二五〇年柳糸を伝う祝酒
川柳のトンネル出口なお見えず
偉大な師足跡追って一歩二歩
接ぎ木して接ぎ木して柳青める
靖国へ行かず龍宝寺参り
平成に確と芽を吹くかわやなぎ
生きていて良かった二五〇年
柳翁が津々浦々に飴する
浅草の風華やか二五〇年
青空を迎れば二五〇年
江戸晴れて川柳二五〇年
明和から二世紀半のつむじ風
川柳とサンバのコラボ目を凝らす
式典にパトンきつちり繋ぎます
川柳二五〇年 平成が江戸になる
川柳を祝って菓立つコウノトリ
川柳の歴史に歩き出す小石
江戸っ子の意地が柳に風を呼ぶ

新潟 白勢朔太郎
埼玉 渡辺 梢
北海道 岩間トキ
神奈川 小泉寛明
神奈川 二宮茂男
宮城あきたじゅん
宮城 中條節子
茨城 太田紀伊子
神奈川 瀧 正治
千葉 米島暁子
東京 岩田明子
神奈川 藤原和美
秋田 平 宗星
東京 中川緋紗子
埼玉 島崎 肇
埼玉 島崎穂花
千葉 牧内ヨシ江
東京 尾川柳蔵
千葉 齊藤富士男
東京 船木千夢
東京 尾藤一泉

今日の佳き日へ川柳さんも嬉しそう	東京	安藤紀樂	川柳は新堀端で花開き	東京	草ヶ谷茂男
東京に二世紀半の江戸探る	千葉	増田幸一	翁眠る町で学べる幸せさ	東京	生沼泰子
雨風に緑濃くして川柳	東京	仲 渥子	相集う句の道ありて今日の幸	東京	浅田邦生
記念碑を建てて翁の偉大知る	東京	丹羽銈一	川柳と人に恋してときめいて	東京	伊藤悠子
アマデウスその時代川柳江戸にあり	東京	伊藤亮次	発祥の地に住む幸を羨まれ	東京	上倉てる子
柳翁も共に綱引く除幕式	東京	中村一郎	川柳からの柳の糸の色模様	東京	杉本禮子
祭典の一人に座せる果報者	宮城	高橋美美子	川柳は川柳たるか百年後	千葉	津田 暹
浅草に川柳芽生え萬世まで	東京	加藤明子	前句附庶民の憂さを演出し	東京	藤井未成
川柳を転がしながら異邦人	東京	佐藤 節	宗匠の偉業のしるし今何処に	茨城	白浜真砂子
よう来たと手招きをする八右衛門	大阪	吉道航太郎	八右衛門どのに乾杯立机祭	千葉	千葉絹子
川柳にせめて残そう江戸の粹	東京	山本桂馬	息づかい今に伝わる柳多留	宮城	福士繁蔵
川柳の二世紀半の匂嗅ぐ	宮城	鈴木昭五	発祥地で駄作を捨てる果報者	宮城	阿部みつ
浅草の風はお江戸の匂いする	千葉	加藤品子	川柳に出逢い人間好きになり	沖縄	大田かつら
ご隠居も熊も迷句を自慢する	東京	大貫友康	川柳のルーツ江戸から学んでる	大阪	吉道あかね
五〇〇年真ん中までは色をぬり	群馬	秋山春海	浅草で川柳立机祝う縁	東京	三井良雄
2・5世紀川柳いや栄え	千葉	菅井京子	川柳を軸に弾んでいる余生	東京	佐藤幸子
周年の明日へ踏み出す第一歩	埼玉	新井良夫	川柳二五〇年今に息づく虹の橋	新潟	伊藤美幸
柳人の集いて詠う木遣歌	宮城	磯松きよし	川柳のロマン求めて趣味に生き	東京	長谷川富男
歳月や津々浦々に柳の芽	東京	洪川溪舟	逢いに来た川の柳が恋しくて	東京	小林正行
あらためて川柳で知る江戸庶民	千葉	陰山照山	人間がいる川柳人が浅草に	宮城	福士 武
ダイビングして川柳を追いかける	鳥取	門脇かずお	立机祭 潮の流れを送ります	東京	野中いち子

記念碑を建てまた二百五十年	東京	関 博之	川柳の開闢を見る記念式	東京	後藤早智
川柳のDNA永遠に	神奈川	高橋里江子	柳翁の偉大さ知った祝賀の日	東京	伊藤睦子
悠久の風と連れだつ川柳	東京	薄井禾乃女	川柳の弥栄いのり杯を挙げ	宮城	葛西妙子
生甲斐を十七音にもらう日々	東京	丸森太郎	根を張って枝葉が伸びる川柳	宮城	田村繁郎
大江戸が小江戸に贈る千の風	埼玉	松永昇児	川柳翁ひとのまだ読むかわやなぎ	埼玉	岡村水無月
熟成のふるまい酒の柳樽	埼玉	河口世詞	二五〇年柳の根っこふれる旅	静岡	水口樹里
川柳の泉ふつつ湧いている	奈良	菱木 誠	ひよっとして先祖も川柳下手だった	東京	松下政一
柳樽あしたへ放つホーホケキョ	高知	広瀬鮎美	川柳にロマン求めて喜寿迎え	茨城	橋本一水
おめでとう二五〇年 ネットサーフィン	神奈川	伊藤夢々	川柳の熱い風吹く今日の江戸	東京	高田淳子
枯れたならクローンもよし川柳	千葉	普川素床	次世代に確かな歩み川柳碑	東京	大島有理
川柳をサンバも祝う江戸の夏	東京	長束宝文	しっかりと大地踏まえて川柳	宮城	佐藤岩男
柳多留今も同じと膝を打つ	宮城	大槻和気子	真剣に真つ直ぐな道 ザ センリユウ	東京	松尾仙影
川柳二五〇年祝う平成交差点	新潟	五十嵐夏了	句を刻む石に命がよみがえる	大阪	了味茶助
川柳がサプリメントで脳元気	福島	鈴木英峰	膝ポンの葉を繁らせる川やなぎ	東京	塩見佳代
暑いけど老躯に鞭の除幕式	埼玉	岡部定雄	指を折る今日も弾んで五七五	北海道	鈴木厚子
川柳も時代にあわせクールビズ	宮城	岡本英司	春夏秋冬揺れて柳の根は不動	神奈川	古俣麻子
二世紀半人詠む種はまだ尽きず	東京	坂牧春妙	落語からなるほど川柳好きになり	東京	生井澤昇
二五〇年確と根を張る川やなぎ	千葉	小倉利江	川柳が五七五で制覇する	東京	新井千恵子
悠久へ人の生計と川柳	神奈川	近藤良樹	川柳は恋人妻が認めてる	千葉	松尾タケコ
三〇〇へ二五〇を酌み交わす	神奈川	石井正俊	古池に川柳一句江戸柳	宮城	菊池幸子
柳界の賑わい柳翁見てござる	宮城	高平伸子	鉛筆で脳トレをする川柳会	千葉	吉道まさお

平成へ継ぐ柳翁の忘	大阪	中田たつお	綿毛飛ぶ出合いと別れ繰り返し	新潟	石川実也子
八右衛門繁る柳に無量感	東京	大川幸太郎	オオタカの一鳴きダムに待ったかけ	埼玉	田中忠正
句の道を歩む私と出会うまで	宮城	仁多見千絵	格差社会質屋通いも板に付き	東京	菊地順風
宇宙まで柄井川柳追い続け	宮城	木田比呂朗	B面の父の日が来る日曜日	神奈川	森 孝夫
三〇〇年目も来ようとと思う川柳祭	北海道	波越靖政	長い道夫婦茶碗も逆になる	埼玉	萩原ともよ
柳もらう雅号へ少し恩返し	東京	内田博柳	送り火が消えても亡母は帰らない	東京	永井天笑
充実の一日だった途中下車	静岡	水品団石	彼にだけ駄目な私を見てもらい	神奈川	阿部闕句郎
遅咲きの花はゆつくり実を結ぶ	埼玉	佐藤美文	始発電車膝がまぶしい向い側	東京	藤巻まんだら
品格が見直されてる趣味の道	東京	竹田光柳	ポストの子母の涙を握りしめ	茨城	山荷喜久男
職辞めて胎内時計生き返る	埼玉	南川哲夫	喜ばすことと思いつき喜ばし	東京	横山きのこ
日に一度眼を裏返し己みる	茨城	荒井文也	左遷地の男が弾む一行詩	東京	上村 脩
肩書きをポケットに入れポランティア	茨城	神保 弘	死人に口なし 年金に時効あり	栃木	小山智庸
放つ矢に住所氏名を書いておく	神奈川	松尾冬彦	新堀をふりむけば風流翁忌	東京	山本忠次郎
シルバーの黄昏狂う羅針盤	北海道	八木柳雀	節ぶしの悲鳴をあげる古希の坂	神奈川	長谷川誠一
ご繁栄永久の趣折念する	東京	武者駿造	先人の偉業を後に伝えねば	栃木	大河原信昭
決断のゴーヤガリガリと食う	静岡	中前棋人	川柳翁ひとのまだ読むかわやなぎ	埼玉	岡村水無月
石一つ核廃絶を願ひ積む	東京	西多法子	川柳があり輪ができ跳んでいる	福島	鈴木英峰
日焼け色若さがはねるサンバの日	東京	杉崎桂子	川柳史飾る師の句を読み返す	兵庫	黒田能子
平成のお江戸に集う美男美女	千葉	本田哲子	川柳にすると夫婦が丸くなる	静岡	望月 弘
熱射病ピンピンコロリさけて行く	沖縄	伊是名文子	川柳の風が臓器に吹き溜まる	宮城	鎌田京子
落丁を集めて蔵よ静かなり	埼玉	斉藤余生	川柳の大ふところを這い回る	新潟	川村雄一
川柳の道ひとすじに続けたい	鳥取	西原艶子	二五〇年の末端ここからを繋ぐ	福岡	富永紗智子
川柳の未来を信じ句作する	青森	藤田雪魚	二五〇年前と後ろの世の移り	埼玉	竹田田三子
川柳の弥栄祈り唱和する	千葉	山根吉城	あの頃の春歌を古書で読むばかり	栃木	吉本瘦児
川柳の立机私の灯をともし	埼玉	須田 昭	いくつもの春追い抜いていく浄土	静岡	設楽亜季浩
川柳を齧ってからの白夜かな	青森	高瀬霜石	江戸泰平川の柳も大木に	埼玉	高島白鳥
川柳を詠んで心の糧とする	岩手	宮沢邦子	江戸っ子の叔父は今だにヒが言えず	千葉	磯野純子
立橋への感謝言葉がまだ足りず	青森	中島久光	臆病で来た道帰るブーメラン	新潟	小川信子
夏日受け川の柳も盆休み	千葉	老沼正一	温暖化安全弁が欠けている	宮城	大田良喜
二百五十年へ新芽続々川やなぎ	千葉	小倉利江	川柳と彬の句碑にする寄進	東京	植竹団扇
パワー全開北の大地も川柳	北海道	鈴木厚子	かわやなぎ二百五十の歩の確か	静岡	斎藤進歩
紐解いて絵巻は走るとどこ迄も	神奈川	森 孝夫	観光の目だまが建った記念碑	滋賀	石部甚一郎
平成の世もいきづくや川やなぎ	大阪	油谷克己	功績を称えて祀る川柳忌	東京	林 鶴彦
まさかまさか目を疑った巻頭句	千葉	今井源親	ゴールなど目指さなくてもやって来る	兵庫	大矢 伸
迷い道また立ち戻る柳多留	千葉	高橋敬三	この道があつて私が生きている	神奈川	杉山太郎
脈脈と続く川柳その一人	栃木	吉本かめ女	これまでもこれからもなお師を仰ぐ	奈良	森野政利
柳から化けて出てくる万句合せ	大阪	了味茶助	芽を吹いていますか二百五十年	千葉	田制園彦
楽天の家神も逗留拒まない	千葉	増田幸一	角樽に書き足す二百五十一		失名氏
柳絮連綿日本の心意気	埼玉	願法みつる	江戸の風彩なす句碑が一つ増え		失名氏
老若男女何百万句川柳忌	熊本	山長岳人	川柳の碑が陽にやける龍宝寺		失名氏
和のこころ喜怒哀楽を詠みつづけ	北海道	四六半酔	酔眼が妻の美人を口にす		失名氏
二五〇年苔むす句碑に夢語る	宮城	沼田亀之助			

着 到 (敬称略)

《主な出席者》

吉住弘(台東区長)、松浦章(松浦史料博物館理事長)、山下一海(堀切実(雑俳研究者)、大川喜彦(たばこと塩の博物館館長)、保坂三藏(元参議院議員)、服部征夫(都議会議員)、木下悦希(台東区議会議員)、河野純之佐、君塚祐史、高柳良夫、実川利隆、田口治喜(台東区議会議員)、野田沢忠治(台東区教育長)、前田烈(台東区教育委員長)、宇田川濱江、田中昭徳(以上台東区教育委員)、和田人志(台東区生涯学習推進担当部長)、鶴原定良、大石傑一郎、染谷征弘、小島康、三木武昭、山本賢一(以上蔵前三桂町会)、森本佳直(合羽橋本通り公西会商店会会長)、青柳智子、浅香眞理子、原えつお(合羽橋本通り公西会商店会)、本田智彦(全日本川柳協会事務局長)、宮野誠(ほろほろ忌川柳俳句会代表)、渡邊かつ世(故渡邊信一郎夫人)、永見純、永見徳代(采久堂)、松岡恭子(新葉館出版社長)、斎藤大輔(「川柳マガジン」編集長)、谷岡ひとし(《日出新聞》社主)、松本正男(《台東区民新聞》代表取締役)、大竹悦子(《台東区民新聞》記者)、増田恵美子、丹治早智子(《東京新聞》下町支局)、橋谷尚人、澤田香織(公募ガイド社)、吉住義之助(しぐれ吟社)、石田きみ、磯部一成、渡辺由美子(久良伎曾孫)、菅埜誠(サツポロピール)、鈴木康史(浅草ビューホテル)、寺嶋弘道(北海道立文学館学芸員)、

《事前投句》設楽亜季浩、林鶴彦、中田尚、阿部開句郎、小山智庸、須田昭、北出北朗、大河原信昭、沼田亀之助、松田義登、阪田きみ子、森田キン子、藤ノ木辰三郎、舟橋豊、老沼正一、木村彦二、尾藤一泉、舟辺隆雄、今井源親、大矢伸、加藤松美、玄武洞、齊藤富士男、普川素床、大田良喜、石部甚一郎、渡部修三、大橋あきゑ、野口一風、小林正行、加藤喜代子、杉山太郎、高見澤直美、成定竹

近、大島有理、山本忠次郎、上倉てる子、山荷喜久男、朝海正雄、板倉敏夫、島崎肇、小泉寛明、渡辺梢、山口早苗、中原たかお、野良くろう、萩原ともよ、石井正俊、広瀬鮎美、田制囃彦、齊木美佐緒、永井天笑、佐藤美文、佐々木福太郎、仲渥子、佐藤幸子、白勢朔太郎、長塚宝文、小川信子、加藤鯉、丸森太郎、藤井茂郎、山口兄六、丹羽銚一、草ヶ谷茂男、宮本彩太郎、長谷川芳朗、山口ヨシエ、清水香代子、大山富寿、米島暁子、松下政一、鎌田京子、鯉沼房子、加藤品子、安部海南子、伊藤亮次、長谷川富男、鈴木瑠女、天根夢草、堀内しのぶ、後藤早智、若月葉、横山きのこ、白浜真砂子、松原幸子、三井良雄、小倉利江、濱山哲也、松井文子、佐藤美枝子、斎藤弘美、水口樹里、西村達、瀧正治、松橋帆波、坂本トシ、あいざわひろみ、高橋和子、伊藤功夫、武田正成杉本禮子、石田一郎、古池めぐみ、長崎昭夫、桜庭兼四郎、野中いち子、長谷川冬樹、菱木誠、山根高芳、佐藤安子、及川竜太郎、菊池幸子、佐藤岩男、桜井末美、小田原千秋、あきたじゅん、中村多美子、木戸宏史、阿部みつ、葛西妙子、伊藤ちえこ、佐々木孝郎、吉田敏子、石川実也子、たかもり紀世、矢口瑛香、染谷さくら、青木貴美子、安田貞夫、五十嵐夏了、本田哲子、佐藤美幸、五十嵐功、宮沢邦子、河合箕久慕、早坂貞、植松静河、葛西浩子、石森令子、千葉文恵、阪本ちえこ、薄井禾乃女、小野正光、佐藤郁子、小野寺安子、高平信子、藤原和美、塩見佳代、吉田健治、田鎖晴天、北村泰章、馬場ひろ志、富永紗智子、金澤清美、木村彦二、安藤紀楽、野村賢悟、福士武、井上千鶴、舟木千夢、櫻崎篤子、黒木せつよ、相沢ミケエ、吉岡繁治、山口幸、須田節子、木田比呂朗、川原喜吉、下田和子、北野哲男、松尾仙影、岩間トキ、仁多見千絵、米司定生、門脇かずお。(三三三名)

乃、高塚秀雄、直地俊一、田中秀子、黒田能子、佐藤さき、油谷克己、尾垣みどり、斎藤克美、丹上久江、小杉澄子、伊藤三十六、小林ときを、山長岳人、山本桂馬、松平弘明、坂本嘉三、中井大八、村上善彦、竹田光柳、山下博、高見英子、小河柳女、竹田田三子、武者駿造、上村脩、中島久光、了味茶助、中村雀鳴、相馬智恵子、二宮茂男、吉道航太郎、大友和郎、高橋敬三、菊地順風、加藤こひで、金澤敏、西原艶子、南川哲夫、中田たつお、内田博柳、河崎あゆみ、福士繁蔵、山田十九子、高橋半眼、菅井京子、渋川溪舟、長谷川哲夫、新井千恵子、磯松きよし、川村雄一、鈴木厚子、佐藤岳俊、伊藤睦子、山本忠良、高瀬霜石、平山耕實、望月弘、吉道あかね、伊是名文子、高島白鳥、近藤良樹、大原十喜、森孝夫、浜本耀子、生沼泰子、吉本瘦児、吉本かめ女伊藤三十六、若林よしえ、斎藤進歩、植竹団扇、田頭良子、杉山昌善、田中静枝、後藤成公、小林敏、小林晴江、浪越靖政、細越政子、星澤英子、願法みつる、山本貞夫、金子すすむ、平田実男、高橋英美子、吉屋悟、新家完司、安部穰、岡本英司、湯井祥人、島崎穂花、保倉すみ江、千代八灯、中條節子、藤田雪魚、三瓶美栄、小野五郎、牧内ヨシ江、山下万博、坂巻春妙、増田幸一、高木貴湖、萩原千賀子、伊藤夢々、濱田良知、井上関男、森野政利、小林寿寿夢、四六半酔、井上桂作、みざわはな、岩田明子、中塚礎石、松尾タケコ、山田純一、田村繁雄(志げを)、鈴木英峰(健二)、松本わか子、大友孝子、岡林京子、土居哲秋、熊谷徹、高田淳子、井出俊太郎、佐藤節、岡村水無月、三浦平一郎、渡辺ひろ美、平井恵香、橋本さち子、藤中公人、貞森南花、大槻和気子、鈴木昭五、佐藤点加、岩渕たか、秋野康夫、陰山照山、杉本禮子、田中忠正、山根吉城、長谷川誠一、大田から、荒怡怡和、神保弘、後藤洋子、新井良夫、遠藤洋悦、大貫友康、川瀬晶子、佐久間京子、尾川柳蔵、秋山春海、磯野純子、神宮司さち、河合成

《句 会》田村茂雄、鈴木昭五、岡本英司、佐藤岩男、磯松きよし、萩原ともよ、葛西妙子、高橋美美子、高平伸子、阿部みつ、菊地幸子、了味茶助、陰山照山、速川美竹、山本桂馬、岩間トキ、伊是名文子、大田から、佐藤美文、福士繁蔵、武者駿造、大河原信昭、中條節子、後藤早智、吉道まさお、鈴木英峰、岡村水無月、藤巻まんたら、津田暹、加藤鯉、中前期人、杉山太郎、水品団石、竹田光柳、本田哲子、あいざわひろみ、松尾タケコ、井上千鶴、宮沢邦子、小倉利江、岩浅武久、田制囃彦、石川蝶平、白瀬朔太郎、門脇かずお、古保麻子、新家完司、願法みつる、山本洵一、大泉美知子、渡辺梢、南川哲夫、岡部定雄、田中忠正、新井良夫、小林正行、西多法子、渋川溪舟、小泉寛明、薄井禾乃女、水口樹里、田頭良子、菅井京子、川瀬明子、高田淳子、横山きのこ、佐藤節、瀧正治、菱木誠、橋本一水、白浜真砂子、松尾冬彦、松下政一、坂牧春妙、田中たつお、岩田明子、石田一郎、山口兄六、広瀬鮎美、吉道航太郎、吉道あかね、鈴木厚子、瀧口吉亮、波越靖政、佐藤幸子、永井天笑、福士武、佐々木紀子、菊地順風、大槻和気子、木田比呂朗、伊東夢々、五十嵐夏了、石川実也子、伊藤美幸、森孝夫、荒井文也、神保弘、山荷喜久男、丸森太郎、長谷川冬樹、磯野純子、平宗星、関博之、安藤紀楽、斎藤余生、佐藤さき、長束宝文、生井澤泉、普川素床、青田煙眉、松井文子、鈴木潮羊、石井正俊、阿部開句郎、河口世詞、島崎肇、丹羽銚一、伊藤亮二、大野風柳、斎藤大雄、夢草天根、北野岸柳、脇屋川柳、雪石隆子、あきたじゅん、仁多見千絵、斎藤弘美、太田紀伊子、三井良雄、秋野康夫、佐藤和助、大貫友康、こそさせいぞう、大沼洋子、杉崎桂子、伊藤悠子、佐藤佳子、新井千恵子、米島暁子、藤ノ木辰三郎、松尾仙影、増田幸一、松橋帆波、加藤品子、八木柳雀、吉田健治、堺利彦、尾藤三柳、藤原和美、山本註、野中 いち子、鈴木瑠女、秋山春海、杉本禮子、大島有理、千

葉絹子、中川緋紗子、松原幸子、松永昇児、山口早苗、塩見佳代、
島崎穂花、二宮茂男、伊藤睦子、藤井裏成、草ヶ谷茂男、大川幸太
郎、内田博柳、仲渥子、加藤明子、生沼泰子、上倉てる子、小山し
げ幸、長谷川哲夫、吉丸淳子、関根彦兵、杉山昌善、近藤良樹、中
村一郎、河合珠代、牧内ヨシ江、小川柳蔵、舟木千夢、斎藤富士
男、尾藤一泉、高橋里江子、本田智彦、長谷川富男。(二八九名)